2025年3月期
決算説明資料

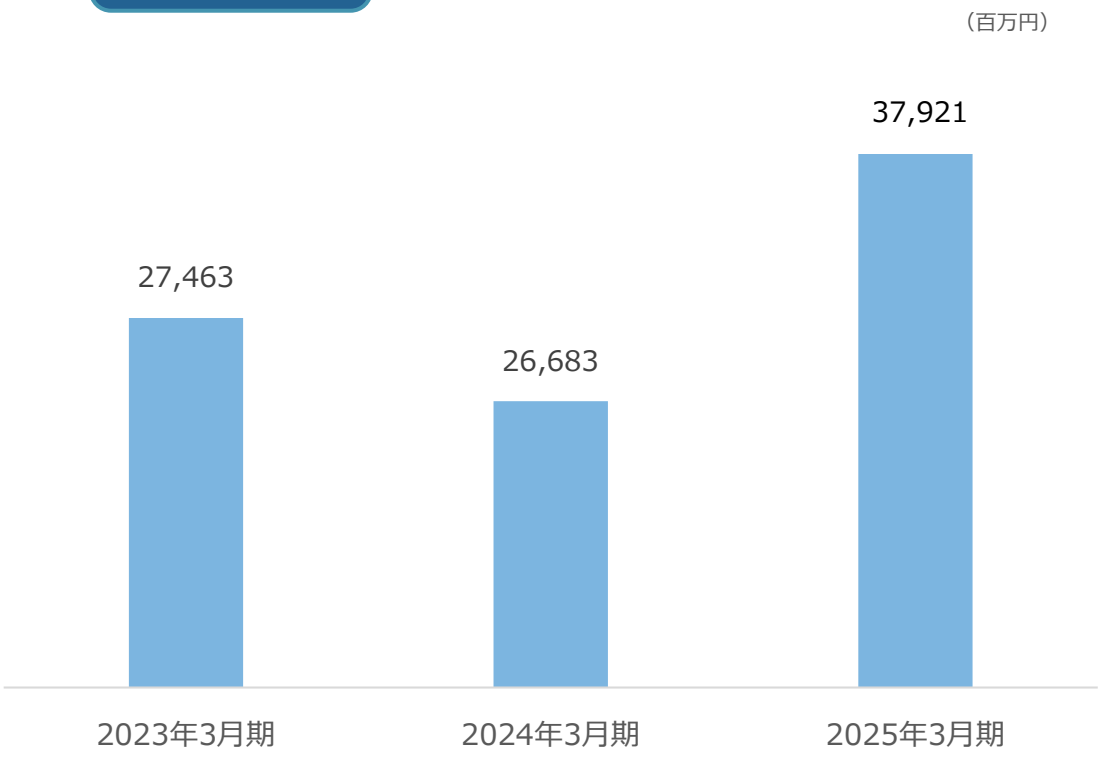
2025年5月14日

株式会社日本ピグメントホールディングス

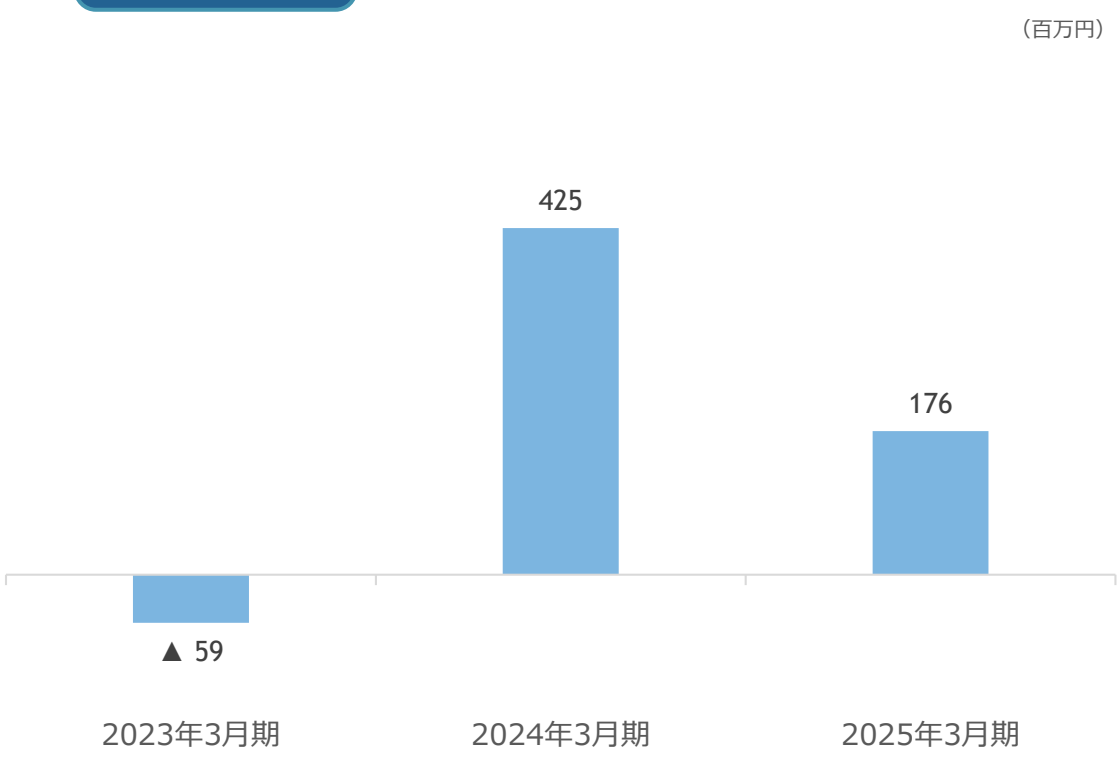
2025年3月期　業績ハイライト

売上高は、連結対象範囲の拡大により大きく増加
営業利益は、経営統合のための一時的な費用の計上もあり減益

売上高



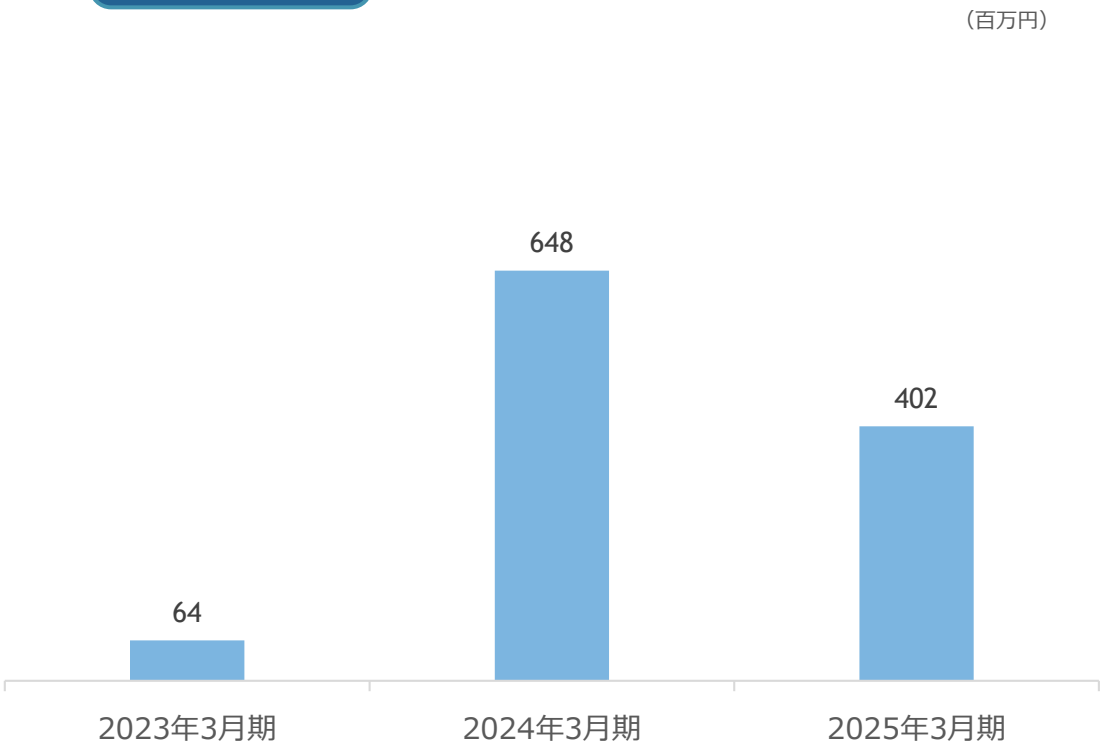
営業利益



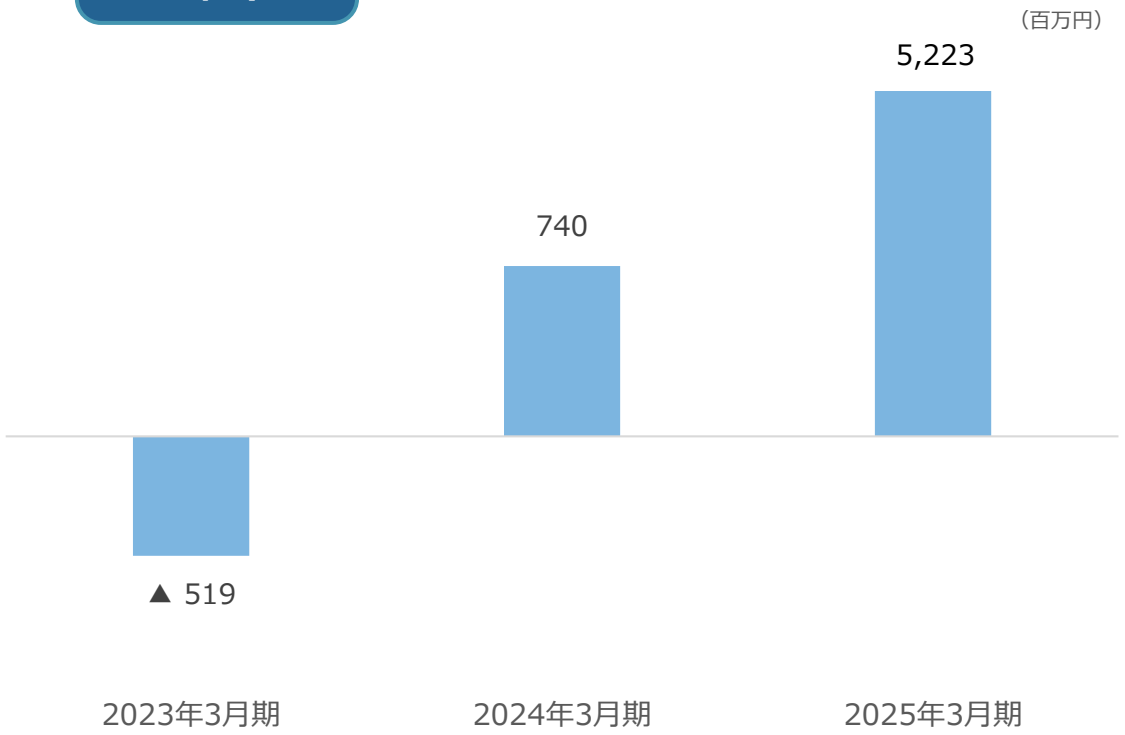
2025年3月期　業績ハイライト

経常利益は前年比で減益
親会社株主に帰属する当期純利益は、PLASiSTの株式取得に伴う負ののれん発生益により大きく増加

経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



2025年3月期　セグメント別実績概況

①　日本

・樹脂コンパウンド部門は、連結対象範囲の拡大により売上高は前年より増加、また、自動車用途において下期より国内需要が回復傾向となり、部門営業利益も増加
・樹脂用着色剤部門は、連結対象範囲の拡大により売上高は前年より増加、また、自動車用途や農業資材、包装資材用MBが堅調に推移し、部門営業利益も増加
・加工カラー部門は、連結対象範囲の拡大により売上高は前年より増加、 PVC関係では一部顧客の販売不振や工場火災の影響で受注が減少、液体液分散体では自動車向けガラス中間膜トナーが堅調に推移、ディスプレイ用途では業界全般としては厳しいものの、新規テーマの獲得により部門営業利益は増加
・経営統合のための一時的な費用の計上もあり、国内合計での営業利益は前年比で減少

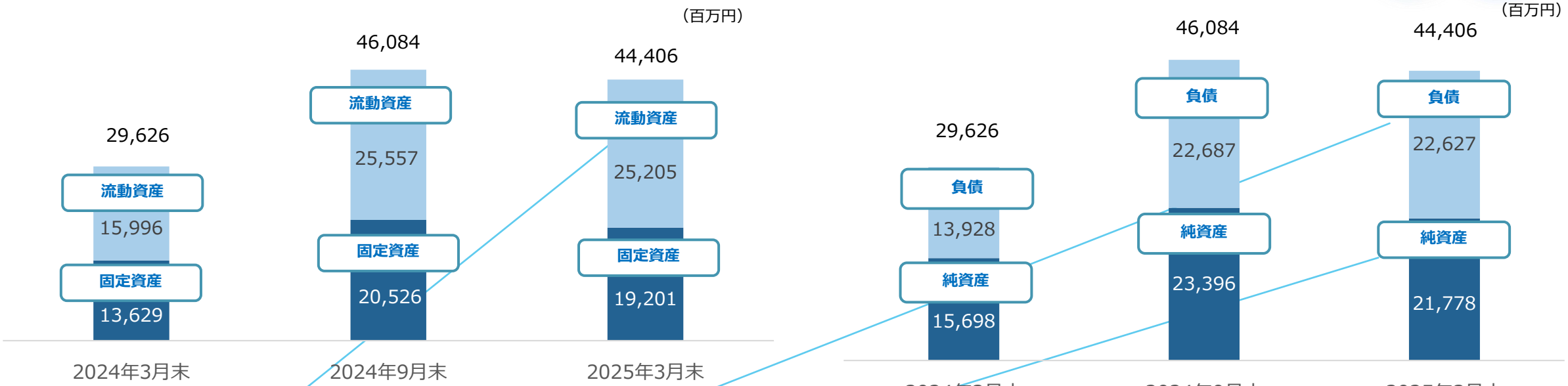
②　東南アジア

・東南アジアは、中国経済不振や各国での自動車販売低調の影響を受けるも、OA家電関係は一部を除き堅調な販売となり、売上高は前年比で増加も、販売構成の変化や電気料金高騰等の影響により、営業利益は減少

③　中国

・連結対象範囲の拡大により当連結会計年度の売上高は前年より大幅に増加も、日系顧客向けの需要低迷や中国国内の価格競争の激化により収益面では苦戦

連結貸借対照表等の概況



資産

○　現金預金、売掛債権の増加

負債

○　借入金、買掛債務の増加

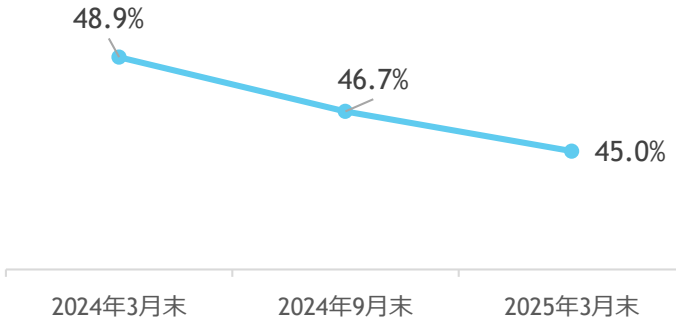
純資産

○　利益剰余金の増加

D/Eレシオ

0.30　（2024年3月末　0.31）

自己資本比率



連結損益計算書の概況

（百万円）

	2024年3月期	2025年3月期	増減率
売上高	26,683	37,921	42.1%
売上総利益	3,782	5,473	44.7%
販管費計	3,356	5,297	57.8%
営業利益	425	176	▲58.5%
営業外収益計	310	375	20.7%
営業外費用計	87	149	70.0%
経常利益	648	402	▲38.0%
特別利益計	1,527	6,850	348.5%
特別損失計	613	2,136	248.5%
税金等調整前当期利益	1,563	5,116	227.3%
法人税等計	722	▲ 105	-
当期純利益	841	5,221	520.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	740	5,223	605.2%

特別損失の計上について

(1) 子会社株式の減損
日本ピグメント株式会社の子会社である東京ピグメント株式会社の株式について「金融商品に関する会計基準」に基づき評価をした結果、株式の実質価格が著しく低下したため、2025年３月期において子会社株式評価損として 197 百万円を特別損失に計上。
※なお、当該損失は個別決算での計上であり連結決算において影響はありません。

(2) 固定資産の減損
日本ピグメント株式会社が保有する埼玉川本工場等の固定資産について、減損の兆候が認められたことから、当該固定資産に係る回収可能性を検討した結果、2025 年３月期において減損損失として1,668 百万円を計上。

(3) その他
関係会社整理損307百万円および固定資産除売却損160百万円を計上。

以上により、2025 年３月期通期において、連結決算にて(2),(3)の合計 2,136 百万円の特別損失を計上しました。

株主還元について

○　当社の配当に関する基本方針は、株主の皆様への安定配当の継続を基本に、当期と今後の業績及び営業基盤強化のための内部留保を勘案して決定

⇒　2026年3月期配当額は、1株あたり100円を予想

	2024年3月期実績	2025年3月期実績	2026年3月期(予想)
1株あたり配当額	100円	100円	100円

2025年度の見通し

○　足許の外部環境は、①依然続く地政学リスク、②米国の相互関税、③長期化する金融引き締め政策など、不透明な状況が続く見通し

日本

○持続的な賃金上昇による個人消費の緩やかな回復が期待される一方、深刻化する人手不足や、依然として高い水準にあるエネルギー・原材料コストなどが企業活動の重荷となる可能性もある。主要需要先である自動車産業は回復基調を維持することに期待も、電気自動車(EV)へのシフトが加速する中での競争激化、各国での環境規制の強化、さらには新興国メーカーの台頭など、事業環境は引き続き急速に変化すると予想。

東南アジア

○マレーシアでは既存顧客の深耕と新規顧客の開拓による受注取り込みを見込む。インドネシアは自国生産品の使用規制などの懸念材料はあるものの、自動車産業の復調や新規アイテムの拡販により販売増を見込む。

中国

○これまでの主力製品であるオレフィン系白MBに加え、PET系白MB、機能性添加剤MB及び色物MBなどの高付加価値品の拡販に注力。また研究開発センターの拡充により製品開発を強化していく。

2026年3月期　通期の連結業績見通しについて

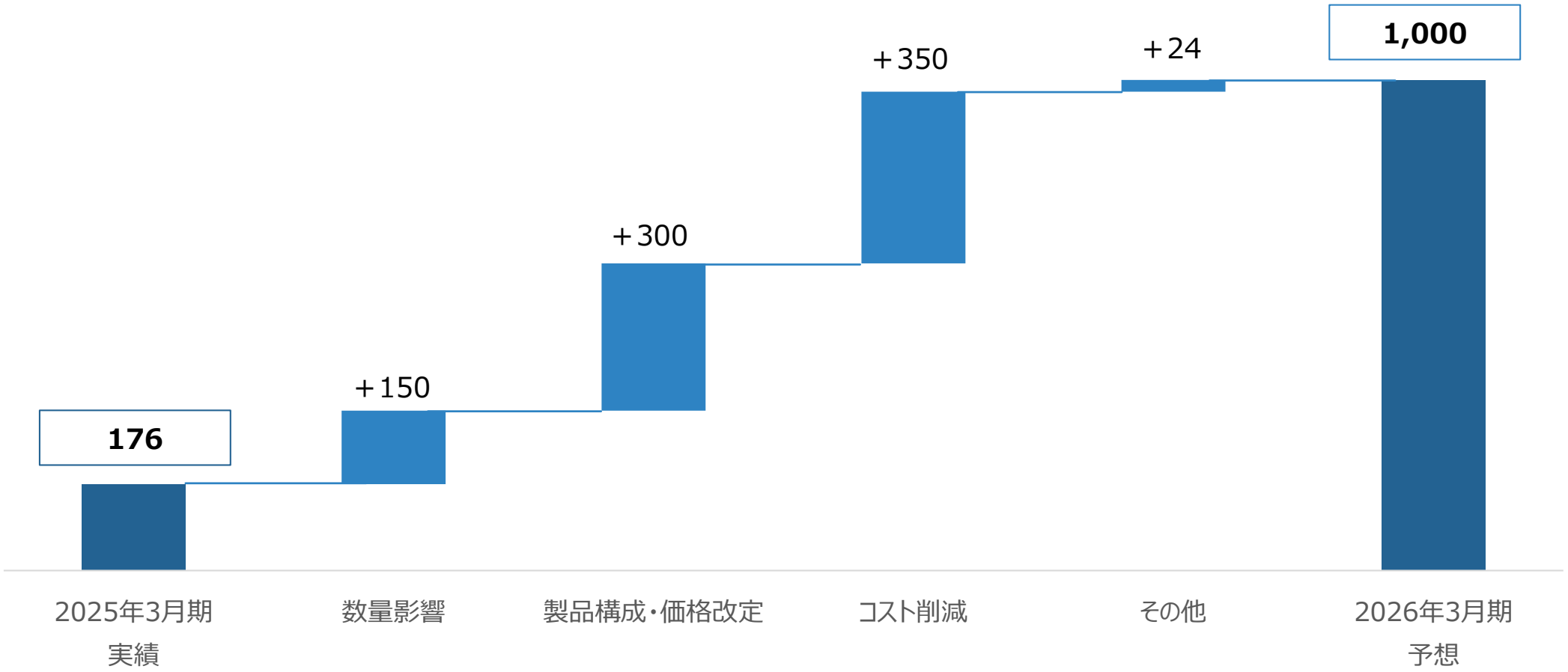
（百万円）

	2025年3月期	**2026年3月期 見通し**	増減比
売上高	37,921	45,800	20.8%
営業利益	176	1,000	466.4%
売上高営業利益率	0.5%	2.2%	
経常利益	402	1,160	188.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,223	700	▲86.6%
1株あたり当期純利益（円）	3,327.96	445.97	
年間配当／株（円）	100	100	–

2026年3月期　連結営業利益見通し

前期比では、数量と製品構成ベースで主にマスターバッチの拡販による増加を見込み、経費では国内生産体制の合理化、経営統合のシナジーの創出によりコスト削減に取り組む。

（百万円）



- 本資料は、投資家の皆様に会社内容の理解を深めていただくための資料であり、投資勧誘を目的としたものではございません
- 記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、及び当社が合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではございません
  また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります

Pigment

株式会社日本ピグメントホールディングス